

日本語教室学習指導案

【授業の視点】

発表会のリハーサルを行った後に、生徒同士で母語を交えての意見交流を行うことは、友達へ分かりやすく伝えようとする意識を高めたり、表現を工夫しながら日本語で話したりすることにつながるであろう。

I 題 材 母国を紹介しよう

II 題材設定の理由

(1) 目標

①全体の目標

- 伝えたい内容を日本語で表現し、発表原稿等を活用しながら日本語で発表することができる。
- 伝えたい内容について聞く人が分かりやすいように整理したり、表現の工夫をしたりすることができる。
- 母国のよさや特色について、友達に積極的に伝えようとしている。また、発表を通して、友達と交流を図ることができる。

②個別の目標

A 2年生	○伝えたい内容について、表現の工夫をしながら日本語で発表することができる。 ○発表会を通して、友達と日本語で意見交流することができる。
B 3年生	○伝えたい内容を日本語で表現し、発表原稿をもとに日本語で発表することができる。 ○母国について、友達に積極的に伝えようとしている。
C 3年生	○伝えたい内容を日本語で表現し、発表原稿をもとに日本語で発表することができる。 ○母国について、友達に積極的に伝えようとしている。

(2) 学習内容

本単元は、本時の該当生徒から、「友達に母国のことを伝えたい。」という希望がでたことを受けて設定したものである。発表会を行うことを目標とさせることで、日本語学習に取り組む意欲や日本語を活用する能力を向上させることができると考えた。

また、母国の行事や食べ物、名所等、母国の文化について紹介したり、聞き手の反応や質問を聞き、必要な情報を伝えたりすることで、生徒同士のコミュニケーションを図れるようになることも期待できる。そのため、紹介する際に必要な日本語表現力を向上させるとともに、それだけでは対応できない部分についてはICTの活用や外国籍児童生徒学校生活支援助手や友達の支援を受けながら、自分の考えや気持ちを伝えられるようにする。その際、学習のプロセスの中に自らのコミュニケーション活動について振り返り、改善していく場面を位置付けることで、他者に配慮しながら、主体的に日本語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養っていく。

(3) 日本語教室の状況

本校の日本語教室に在籍している生徒は、1年生7名、2年生2名、3年生3名の計12名である。生徒の指導時間や学習内容は、担任や保護者との情報交換を行いながら各生徒の実態に応じて週3～8時間で設定している。学習に際して、本校では外国籍児童生徒学校生活支援助手が月～金の午前に対応している。

Ⅲ 生徒の実態 (省略)

Ⅳ 指導計画

過程	配時	学習活動	学習への支援	評価項目 (方法)
つかむ	1	○発表会の内容や準備の流れを知る。	○学習の見通しを持たせるために、外国籍児童生徒学校生活支援助手に通訳してもらいながら確認する。	○発表会への意欲を持ち、友達に伝えたい内容を考えようとする。 (発言・記述)
	2	○発表する内容を考える。	○タブレットを使用し、思いついたものから入力させ、その後取捨選択し発表内容を決めさせる。	
追究する	3	○発表したい内容について調べ、調べたことを整理する。	○タブレットの操作方法やインターネットでの検索の方法について補助する。	○聞く人が分かりやすいように、発表内容を整理したり表現の工夫をしたりしている。 (記述・発言)
	4		○検索で出てきた難しい表現等については、生徒の質問に対応する。	
	5			
	6			
	7	○発表原稿を作成する。	○発表原稿については、教師が修正の必要な箇所がないか確認し、助言する。	
	8			
まとめる	9	○発表原稿の確認と読みの練習をする。	○原稿をある程度読めるようになった段階で、電子黒板で資料の提示をしながら発表する練習をする。	○発表原稿等を活用しながら日本語で発表することができる。 (発表) ○発表を通じて、友達との交流を図ることができる。 (発言・観察)
	10			
	11 本時	○発表会のリハーサルを行う。	○発表後、生徒同士で意見交換を行い、発表をより良いものにしようとする意識を高める。	
	12	○発表会	○友達との交流の機会をつくるために、発表会の感想を聞く場を設定する。	

Ⅴ 指導方針

(1) 「つかむ」

- 導入の際には、「友達に伝えたいことがあるか。」という切り口から学習をスタートさせ、学習内容への関心を高める。
- 学習の内容や流れを理解させるために、生徒からの質問を積極的に受け、生徒に疑問が残らないように回答していく。

(2) 「追究する」

- 発表内容について調べる際にインターネット等を活用したり、発表内容を整理するためにタブレットを活用したりすることで、学習の効率化を図る。(校内研修とのかかわり)
- 日本語で話すことに慣れていない生徒もいるため、発表用スライドや発表原稿における日本語表現についての助言や発表練習時の支援を行う。
- タブレットの操作方法やインターネットでの検索の方法などに慣れていない生徒については補助する。

(3) 「まとめる」

- 発表についての意見交換を行い、一往復半の学習活動を取り入れることで、友達との交流を図ったり、学習を深め合ったりする場面を設定する。(伊勢崎教育構想2022, 校内研修とのかかわり)
- 個々の考えをまとめる際の支援として、ワークシート等を活用する。
- 生徒の発表場面では、聞き手に分かりやすく説明できるように、ICTを活用する。

VI 本時の学習

(1) ねらい

①全体のねらい

○母国について日本語で発表するとともに、意見交換を通して友達との交流を図る。

②個別のねらい

A 2年生	○聞き手に配慮し、発表内容に応じた表現の工夫をしながら発表することができる。 ○聞き取りメモに日本語で記入することができる。
B 3年生	○発表原稿をもとに、聞き取りやすい速さや発声で発表することができる。 ○意見交流の場面では、積極的に意見を発表することができる。
C 3年生	○発表原稿をもとに、聞き取りやすい速さや発声で発表することができる。 ○意見交流の場面では、積極的に意見を発表することができる。

(2) 準備

教師…電子黒板，教師用タブレット，ワークシート，ホワイトボード

生徒…タブレット，発表原稿

(3) 展開

学習活動	支援及び留意点	時間	評価項目
○本時のめあてをつかむ。 ・本時の学習の流れを確認する。 ・ICT機器の操作方の確認をする。	○発表会の流れを理解できるように、板書しながら説明する。 BC：支援助手に支援してもらいながら、本時の学習の流れを理解できたか確認する。 ○ワークシートを配り、記入の仕方を説明するとともに必要な個所に記入させておく。	6	
○発表会のリハーサルを行う。	○3名の生徒が順番に発表する。 ABC：発表が最後まで行えるように、必要に応じて教師や支援助手が支援する。 ○1人の発表が終わるごとにワークシートに記入する時間を設定する。 A：ワークシートは日本語で記入させる。 BC：母語での記入も可とする。	15	○個々のめあてに応じて、日本語で発表することができる。
○生徒同士で意見交流する。	○一人ずつ順番に意見や感想を発表し、聞き手はワークシートに聞き取った内容を記述する。 A：日本語で発表させ、BCの理解を促すために、必要に応じて母語で説明させる。 BC：母語での交流とするが、簡単な表現については、支援助手に支援してもらいながら日本語で発表させる。	10	○ワークシートをもとに、友達との意見交流ができる。
○自分の発表についての見直し・改善を行う。	○友達の見解を参考にして自分の考えを整理し、スライドや発表原稿の手直し、発表の仕方の練習を行う。	15	
○本時の学習の振り返りをする。	○発表会で頑張った姿を称賛し、本時の感想を聞く。	4	

発表会聞き取りメモ

年 組：氏名

発表者	良かった点・改善点・感想

○自分の発表を振り返ろう

<良かったところ>

<改善や工夫をしたいところ>